

令和2年度の学校評価結果と令和3年度の推進策について

学校評価は、学校の教育活動や学校運営などの改善・充実を図り、より質の高い学校教育の実現をめざして行うものです。

今年度も本校では、保護者、生徒、地域を対象とした学校関係者評価アンケートを実施しました。また、校内でも、第2次世田谷区教育ビジョン及び学校経営方針に基づいた点検・評価を行い、こうした結果を学校関係者評価委員会に提出しました。

このたび受け取った学校関係者評価委員会からの報告書と本校の自己評価を踏まえ、「令和2年度の成果と課題」「令和3年度の学校経営推進策」について、お知らせします。

令和2年度の成果と課題

Ⅰ 重点目標について

(1) 時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る。

この目標は、平成30年度以来、継続している目標であり、重要性への認識や手法の工夫など、教員の意識と取り組みは共に年々好転している。

本年度は、①生徒の学びに向かう力をはぐくむ ②思考力・判断力・表現力が高まる学習指導を工夫する。の2点を重視して、目標の達成をめざしてきた。個に応じた学習ガイダンスの機能を高めることや、キャリアアップ講座・夏季補習の充実を図った点は、成果につながっている。また、思考力や表現力を問う良質な定期考査問題が定着しつつある点は、教員の指導観の変化にも結び付いている。一方で、計画的に粘り強く学習に取り組む力は、下学年であるほど弱いことが明らかであり、学年を問わず、授業によっては、生徒が知識の習得に費やす時間が長く、活動や課題解決に充てる時間が不足している現状もある。

本目標の指標とした、学校関係者評価アンケート生徒対象「わたしは、意欲的に学習に取り組み、よく考えようとしている。」の肯定的評価の割合は目標値(80%)に届かず、73%であった。この数字が高まることが、学習に対する生徒の自信の獲得と未来に有用な学力の向上につながっていくと考える。教員の自己評価でも課題となった「視覚的教具の有効活用」「アウトプットする学習活動の確保」を推進していく必要がある。

(2) 自らを律し、他者に貢献する行動力を高める。

多くの生徒が「富士中プライド」として掲げる1つが、ノーチャイムの日常である。時間を意識し、タイム着席で授業が始まる日々は、生徒の自律を感じる重要な

場面である。学び舎スタンダードにある「始まりの時間を守ろう」を生徒と教員が共に実践してこそ、生徒の自律心はより高まっていく。学校関係者評価アンケートの生徒自由記述には「先生も授業の始まりと終わりの時間を守ってほしい」という意見があり、このことを重く受け止め、3学期当初に修正した経緯がある。次年度もこの点は継続していく。

地域でのボランティア活動への参加も「富士中プライド」の1つである。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の必要から、地域での諸活動はほとんどが中止となった。しかし、小中合同のクリーン作戦や校内で行ったボランティア活動には多くの生徒が参加をした。今後も校内外を問わず、貢献するチャンスを生徒に与え、その喜びを味わわせることは大切だと考える。

(3) 心身の健康に努め、自分が属する集団への愛情と誇りを育てる。

いくつもの学校行事が中止、または規模の縮小を余儀なくされた中で、学校関係者評価アンケート生徒対象「毎日の学校生活が楽しい。」の肯定的評価の割合を向上させることができた。(73%→84%) 学級満足度・学校生活意欲を測る調査である Q-U 調査においても、不満足群の生徒の割合は昨年度より減少した。

(23%→20% 全国平均28%) 今年度は、生徒会で楽しい学校生活の実現のために、昼休みのレクリエーションを企画・実施したり、学年・学級経営の工夫をしたりした成果だと捉えている。また、昨年度の学校関係者評価委員会から「入学時前後の円滑な小中学校移行や教育相談、学習カウンセリングなど、更に手厚い対応が必要と思われます。」との指摘があり、新入生には、入学時期からの安心できる環境づくりをめざしたところ、1年生の Q-U 調査の結果は、大きく改善できた。

しかし、全校で約15～20%の生徒が学校生活に充足していない結果は真摯に受け止め、満足度が100%に限りなく近づくよう努めていく。

生徒が自らの心身の健康に努めるように指導することは、コロナ禍の影響もあり、教員の自己評価では約半数が「とてもよく行えた。」と高く評価した。生徒の様子からも、日常的に心身の健康に努める意識と行動力が高まったことが十分にうかがえる。

II 家庭・地域との連携・協働による教育について

学校関係者評価アンケート保護者対象「本校は、学校・学年だよりなどで保護者に情報を提供している。」の肯定的評価が95%にのぼり、全設問中でも肯定的回答が大変高い設問になっている。地域対象のアンケートでも、同様の結果が得られた。自由記述では、今年度も学校 HP に関する肯定的意見が見られた。引き続き、丁寧でわかりやすい情報発信を行っていく。

社会全体でのデジタル化が加速する中で、メールを利用した欠席連絡や ZOOM による保護者会などへの参加を求める声が届いている。確かな双方向の連携を主軸としながら、こうした方法の導入や試行をしていくべきだと考えている。

本年度は保護者・地域の方々が来校し、生徒の様子を直接知る機会が極めて少なかった。次年度は、学校公開の日数の増加、さらには授業以外の場面も参観できるようにし、通常の社会生活に戻った時期からは、学校・生徒の様子を知る機会を計画的に増やしていく。

Ⅲ 「世田谷 9 年教育」で実現する質の高い教育の推進について

生徒は全般的に規律ある学校生活を送れた 1 年であり、今年度の生活指導に関する教員の自己評価は良好な結果であった。「いじめの防止と早期解決を適切に行っている。」と「不登校の兆しがみられた時の対応を適切に行っている。」の設問に対する教員の肯定的評価の割合は、この 3 年間で着実に伸びている。いじめの防止には、年間 5 回定期的に行っている生徒アンケートが機能し、実際に生徒間のトラブルが発生した時には、学校内での情報共有と解決への協働的なアプローチが功を奏している。不登校に対しては、一律の対応ではなく、その生徒の実態に合わせた多様な対応力が教員に身に付いてきている。

学習指導に関する学校関係者評価アンケート生徒対象の設問の中で、最も好結果だった設問は「先生はわかりやすい授業をしている。」であり、昨年度より 6 ポイント高い 91% の生徒が肯定的回答をした。一方、「先生は映像やタブレットなどの ICT を利用している。」の肯定的回答は 51% と、学習指導に関する質問の中では低い結果である。本年度末の全生徒へのタブレット配付と校内ネットワークの再整備を機に、学習方法を工夫していくことが、次年度の大きな目標となる。また、「総合的な学習の時間で学んだことは、自分の生活や将来に活かせると思う。」の肯定的回答が期待ほどよい数字ではなかった。(72%) 予定していた体験的学習が実施できなかったこともあると思われるが、キャリア教育の充実のためには、学習内容と学習方法を見直す必要がある。

Ⅳ 教育環境の整備・充実と安全安心の確保について

年度内に、区が計画的に進めている体育館の耐震補強工事が終了し、2 月より利用できるようになった。また、校内通信ネットワーク再整備も終了し、全教室でのインターネット利用が可能になった。

学校関係者評価アンケート保護者自由記述では、校内セキュリティへの不安に関する記述があった。現環境の中での対策を検討する必要がある。感染症予防対策は、引き続き、十分に講じていく。

令和3年度学校経営推進策

1 主体的な学びの支援

生徒が主体的に学習に取り組める指導と支援を強めていく。その1つの方策として、タブレット端末を活用した授業づくりを試行錯誤しながら推進する。各教科の授業にとどまらず、総合的な学習の時間や諸活動での話し合いなどにも効果的に採り入れられるように努め、学校生活全般における主体性につながることをめざす。

定期考査後に行う学習相談は、必要な生徒が、より多く参加するように促すとともに、希望する生徒に模範解答を配付するなど、その後の学習への動機づけを確かにしていく。

2 思考力・判断力・表現力の育成

知識を蓄えることに偏ることなく、課題解決や探究的な学習を授業に採り入れることによって、思考力・判断力・表現力をはぐくんでいく。定期考査では、こうした力を試す問題を意図的に採り入れ、よい授業実践と良問の出題によって、学びの質を上げることが継続していく。

また、1年生はコミュニケーションタイムを、2年生は新聞の社説の要約を朝学習で計画的に実施し、それを教科日本語の授業に位置づけることで、より意図的な学習に発展させ、課題を多面的にとらえたり、論理的に考えたりする力を高めていく。

3 キャリアパスポートの活用

キャリアパスポート（自分の生活や学習を、見通したり振り返ったりするために作る記録）に、①から⑤をファイルする。

- ①毎学期の目標と振り返り
- ②大きな行事の振り返り
- ③夏休みと冬休みの目標と振り返り
- ④定期考査の学習計画と事後学習計画（④は1・2年生のみ）
- ⑤ボランティア活動の記録

このことを通じて、よりよい自己実現を図ったり、社会参画や人間関係の形成への意欲を高めたりすることをめざす。

キャリアパスポートは、学期が終わるたびに保護者に渡し、子どもの考えや様子を知る材料の一つにする。

4 学校公開機会の拡大

令和2年度は、保護者が来校する機会を十分に保障することができなかったことから、社会的状況が許されていることを前提に、学校公開を増やす。

通常授業の土曜日は、毎回、学校公開日とする。また、2、3学期の保護者会前の5校時も授業参観ができるようにする。土曜授業日には道徳授業地区公開講座、ゲストティーチャーを招いてのキャリア学習、引き取り訓練などを充て、平素の授業以外の学習場面も参観できるようにする。学校公開時は、委員会活動や部活動の参観も可能とする。

5 家庭との連携の充実と効率化

本校がめざす学校像の1つとしている「保護者に安心感と満足感を与え、学校と保護者が協働する学校」をより具現するため、2学期末の三者教育面談（1、2年生対象）を6日間とする。3年生の2学期の三者教育面談は、これまでどおり、延べ10日間を確保する。通知表については、保護者との直接的な意思疎通を優先させる観点から、担任所見の作成は学年末のみとし、家庭からの通信欄はなくす。

生徒の欠席連絡については、始業前の電話連絡の他、メールによる連絡も可能とする。

学校関係者評価の保護者の自由記述には、「学校からのお知らせを子どもが見せないで、HPに掲載してほしい。」という意見が数件あった。重要文書は従来通り載せていくが、日常の配布文書については家庭内の重要なコミュニケーションツールになるべきものとする。学校では、「お知らせ」を保護者に渡す指導を継続する。

6 学び舎スタンダードの着実な実施

学び舎スタンダードは、9年間の義務教育の中で身に付けさせたい基本的事項である。本年度は児童・生徒の手によってマスコットキャラクターを製作し、スタンダードがより身近なものとなった。生徒と教員が一体となってスタンダードの実現を図り、誰にとっても心地よい学校生活を実現していく。

7 その他

○新標準服の決定

令和4年度新入生から、新標準服となる。就学予定保護者代表、本校生徒・PTAと共に、これからの時代の富士中生にふさわしい標準服を定めていく。

○教員のゆとりの時間づくり

電話機の音声案内の導入は、教員の従事時間短縮のための方策の1つである。教育的指導へのエネルギーの充足こそが生徒のためであり、業務整理を継続する。